

東北被災地レポート

～一人ももらさない網の目～

大田市
太田 明夫さん



大田市 太田 明夫さん

大震災・大津波発生後、4月上旬の宮城、下旬の岩手と2度、被災地での活動に参加した。前者は日本赤十字の、後者は岩手県内の被災障がい者支援に徹したものであった。ここでは、紙面も限られているため、被災地に出合ったいくつかの出来事から、二つだけ紹介するに留める。

「福祉避難所」は弱者を救う？～テレビ画面の裏側で～

車いす生活のKさんの要請で、買い物支援に行った。家のすぐ下まで津波が押し寄せたという彼女は、兄に背負われていった避難所に逃げた。だが、そこに障がい者の居場所はなく、「あなたがいると迷惑」「あなたの来るところじゃない」とまで言われ、悔しい思いで自宅に帰っていた。こんな体になった自分が悪いんだとあきらめて。死にたいとさえ思いながら。

その後、彼女は地元テレビ局のニュース番組に登場した。今は自宅で暮らす彼女に、地元の世話人が声をかける。

「もうすぐ福祉避難所ができたら、そこさ入るべ」「ありがとね。行かせてもらうからね」

辛い被災地暮らしの中の、日だまりのような光景。

しかし、じつは「福祉避難所なら医療設備も充実してるかな」と、単純には喜ばない。わが被災地障がい者センターのリーダーは「あ～あ、これでまた後退だなあ」とため息をつく。長い間の努力で障がい者が町に出て、社会参加できる町を目指して活動してきたのに、こうして「福祉」の名の下に障がい者や高齢者が見えないところに隔離されてしまう。これでは逆戻りだ。リーダーは言う。「どこの避難所も福祉避難所になればいいんだ」

そこに気づきたい。

今回のような大きな災害に遭った時、人は助け、支え合い、温かなコミュニティを作り出す。それを「災害ユートピア」と呼ぶという。だが、そこに障がい者や高齢者は入っていなかったとしたら、ユートピアは偽りでしかない。

年寄りたちが眠れねえから・・・

しかし、一方で、こんな思いをしているのか、という子どもたちもいた。

Y町でのテント張り。二人のやんちゃな中学生が作業を手伝う。黙って聞いていると、作業の間中ゲームの話ばかり。「少年！中学生は全国共通だなあ」と思わず声をかける。だが、彼らの日常は決して“全国共通”などではない。少年の一人が、張り終わったテントを見て「ここなら足のばせるな」と何気なくつぶやいた。発災から3週間、避難所近くの自家用車の中で寝ているのだ。家族に迷惑かけるから、「できるだけ外で過ごす」中学生。「広いねえ」とテントに寝てみる母娘。「最初はみんな避難所に入ったけどな、年寄りたちが膝抱えて眠れねえから、これじゃダメだ、若いモンは出ようつって車に移ったんさ」と語る親父・・・。

災害に強い町

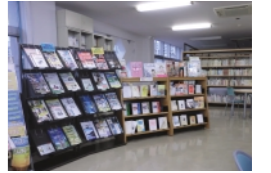
今回、私は短期間で8市町を回った。その印象を一言で言えば、あまりにも当たり前のように、災害に強い町になるのは日頃のつながりの強さに尽きる。一人としてもらさない網の目を持たなければ、いざという時に支えきれない。

結局、問われているのは日常であることに、改めて気づかされた。

人権啓発・研修 おすすめDVD紹介

センターでは、みなさんの心の糧となるDVDやビデオを豊富にご用意しています。その中でも特に職場研修等で活用しやすい作品をご紹介します。

貸出無料



人権啓発推進センター

新着 クリームパン



子どもへの虐待・命の関わりについて正しい理解を訴えます。人と人が出会い、つながっていく「いのちの物語」が1つのクリームパンから始まります。

見どころ

この作品は『「いのち」とは温かく、ずっしりと重く、一度失われたら二度と再生しないもの。』であることを子どもや若者、大人にも再確認させてくれます。

〔(公財)兵庫県人権啓発協会 東映株式会社〕
※(公財)兵庫県人権啓発協会の標記資料からの転載です

新着 今日もよか天気たい



人生の半ばで視力を失った女性「京子」を通して、バスに乗り合わせた乗客達が自身の心の中にある偏見や差別と「人権」の大切さに気づくストーリーです。

見どころ

この作品は『一人ひとりの温もりのある心に触れること、支え合って生きる喜び』がいかに大切かを訴えます。活用事例が掲載された丁寧な学習の手引きがありますので職場研修に最適です。

〔福岡県・(財)福岡県人権啓発情報センター 共和教育映画社〕

おすすめ メンタルヘルスと人権



うつ病の当事者と上司・同僚・家族の視点から考える問題提起型ドラマ作品

利用者の声

- ・うつ病についての予防も含めて職員への啓発になる。
- ・うつ病に至る過程が具体的に理解しやすかった。
- ・チームで取り組むことの大切さや、うつ病について理解できた。
- ・仕事量の分配を考えることにつながる。

〔(株)解放出版社〕

おすすめ 親愛なるあなたへ



無関心・無理解の壁を破り、温かい見守りと相互支援を進める大切さを学ぶ作品

利用者の声

- ・研修に参加した全員が涙し、感動した。視聴後の感想でも、肯定的な評価がほとんどで、色々な気づきにつながった。
- ・人権はもちろん地域づくりや人間関係など広い視野で誰にとっても共通する内容だった。

〔(公財)兵庫県人権啓発協会 東映株式会社〕
※(公財)兵庫県人権啓発協会の標記資料からの転載です

おすすめ 私たちの声が聴こえますか

社会福祉施設等の入所者に対する身体的・心理的虐待等について考える作品

利用者の声

- ・問題点・要点がコンパクトに盛り込まれていた。
- ・何気なく過ごしていたことも見つめ直さなければいけないのだと改めて実感させられた。
- ・それぞれの視点での気づき・改善点等について話し合いを行った。

〔企画：法務省・全国人権擁護委員連合会・(財)人権教育啓発推進センター〕

おすすめ 人権のヒント 職場編

日常生活のいろいろな場面から「人権のヒント」について一緒に考える作品

利用者の声

- ・職場内で起こりうる事例で参考になった。
- ・職場研修に利用したが、ワークシートがあったのでグループ討議が進めやすかった。
- ・いろいろな内容が簡潔なエピソードで構成されており、わかりやすかった。

〔東映株式会社〕

その他、図書やパネルの貸出も行っています

※全作品「手引書」つきです。